

## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：下保 修

<b>事業名</b> 地域高規格道路 一般国道26号 <small>だいにほんわ</small> 第二阪和国道	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> 自：大阪府 <small>はんなん</small> 大阪市 <small>じねんだ</small> 自然田 至：大阪府 <small>せんなん</small> 泉南郡 <small>みさきちょう</small> 岬町 <small>ふけ</small> 深日	<b>延長</b> 11.2 km	
<b>事業概要</b> 一般国道26号は、大阪市を起点とし、大阪湾沿いに堺市、岸和田市、阪南市など大阪府南部の主要都市を經由して、和歌山市に至る全長約75kmの主要幹線道路です。このうち、阪南市以南については、地域の発展に伴い交通量が増加し、慢性的な交通渋滞が発生しています。特に休日や夏季のレジャー目的による交通渋滞は深刻な状況です。第二阪和国道は、こうした交通混雑の緩和を図るとともに、交通安全の確保及び地域の活性化を目的に計画された道路です。		
S63年度及び H17年度事業化	S62年度都市計画決定	H5年度用地着手
H8年度工事着手		
<b>全体事業費</b> 1,020億円		<b>事業進捗率</b> 54%
		<b>供用済延長</b> 6.2km
<b>計画交通量</b> 20,600～25,700台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.6 (残事業) 3.1	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 359/1,086億円 (事業費：342/1047億円) (維持管理費：17/39億円)
		<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 1,108/1,722億円 (走行時間短縮便益：988/1,556億円) (走行費用減少便益：107/142億円) (交通事故減少便益：14/23億円)
<b>基準年</b> 平成19年		
<b>感度分析の結果</b> 残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.4（交通量 +10%） B/C=2.8（交通量 -10%） 事業費変動：B/C=2.8（事業費 +10%） B/C=3.4（事業費 -10%）		
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される） ・安全で安心できるくらしの確保（泉佐野市にある三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）他15項目に該当		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 交通混雑緩和による交通の円滑化、安全性の確保及び宅地開発事業等のプロジェクトを支援することによる地域の活性化を図るため、沿線市町による期成同盟会をはじめとした関係諸団体より、第二阪和国道の早期供用が強く求められています。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成15、16年度に供用した区間においては、渋滞が緩和されたが、未供用区間においては、依然として、深刻な渋滞が発生している。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 用地進捗率は全体で63%完了しており、平成19年度までに自然田～箱ノ浦ランプ間約6.2kmを暫定供用済。残る未供用区間のうち昭和63年度に事業化された区間では、平成18年度より一部工事に着手している。また、平成17年度事業化された区間においても路線測量の着手をすべく準備中である。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 箱ノ浦ランプから淡輪ランプ（仮称）間の延長約2.8kmについては、平成22年度に暫定2車線での供用を目標としており、淡輪ランプ（仮称）から深日ランプ（仮称）間についても、早期の供用に向け整備を推進する。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 施工にあたっては、建設発生土の有効利用や新技術・新工法を積極的に採用するなど、コストの縮減に努める。		
<b>対応方針</b>		事業継続
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		

## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：下保 修

事業名 地域高規格道路 第二阪和国道 一般国道26号 だいにほんわ 第二阪和国道	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：大阪府 はんなん じねんだ 阪南市 自然田 至：大阪府 せんなん みさきちょう ふけ 泉南郡 岬町 深日	延長 11.2 km	

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。